

 Sumitomo Pharma

DemoDay2023

Aikomi

提携先：株式会社Aikomi

2023年8月24日

住友ファーマ株式会社 フロンティア事業推進室 上岡 直美

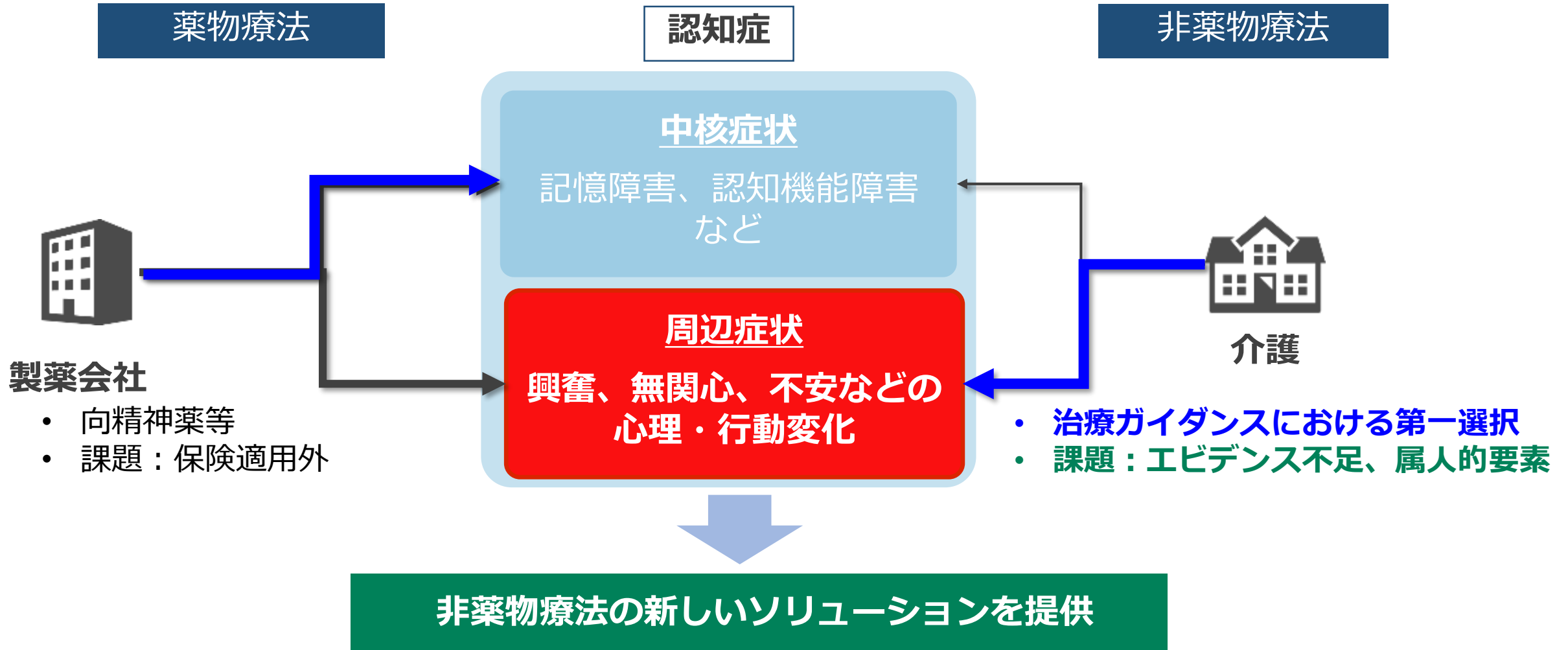


Aikomi Summary (パートナー：株式会社Aikomi)



製品名	Aikomiケア®	Aikomi DS	未定 (医療機器)
種別	General Wellness (GW)	General Wellness (GW)	医療機器
開発ステージ	会話のきっかけとなる、個別最適化した鑑賞プログラムを提供する汎用モデル (リモートで利用可能)	介護デイサービスでの個別機能訓練に適したモデル	BPSD*の緩和を目的とするプログラム 医療機器
ビジネスモデル	Aikomi社により、2021年3月に試験販売開始	Aikomi社により正式販売中	開発中 (当社とAikomi社との共同研究開発)
提供価値	未定 (試験販売を通じて詳細決定)	介護施設への月額定額制での販売	保険償還
上市時期	認知症の方とご家族や介護従事者との結びつきを促進し、介護負担を軽減する	利用者のコミュニケーション及び心理的安全性を増加する 介護従事者は、利用者と1対1で寄り添う時間を通して介護業務の豊かさを実感できる 介護施設は、個別機能訓練加算を取得することで施設収益が増え、経営安定化につながる	BPSDを緩和する
事業規模	未定	2023年7月	2028年度以降予定
	非開示	非開示	非開示

認知症ケアにおける周辺症状の位置づけ



目指す世界観



認知症の方の自立したシニアライフを実現できる世界を目指します

【現状の課題】

周辺症状ケアで推奨される**非薬物療法はエビデンスや体系化が不十分**

認知症介護領域は専門的で属人的な領域であり、**イノベーションにより改善する余地のある事業領域**

【本ソリューション／デバイス：実現】

認知症の方とご家族、介護従事者との「対話・関与」など結びつきと信頼形成を促進し介護負担を軽減

認知症の方の人生背景、好みに合わせた非薬物療法をデジタルで実現し、認知症ケアに関わる人々のQOLを向上

 Sumitomo Pharma

- 精神・神経疾患領域における医薬品と一体化した**ヘルスケアソリューションの創出**
- 認知症領域における**他の認知症ソリューションとのインテグレーション**



 Aikomi

- 認知症周辺症状への**総合的非薬物療法を目指す新しいデジタルセラピー**
- QOL向上のための個別化・自動化を実装した**パーソンセンタードケアの研究開発**

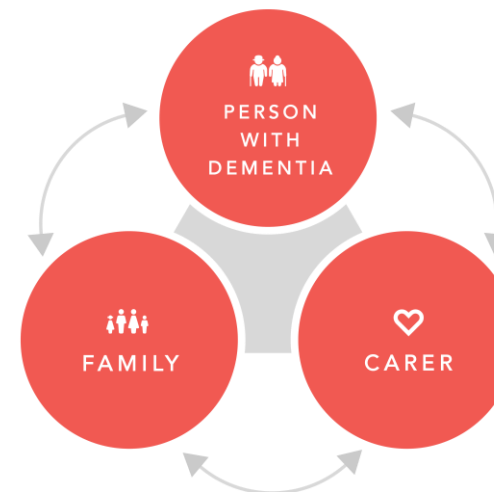
株式会社Aikomi : 概要



Mission テクノロジーを活用して 認知症トライアド（認知症の人、家族、介護者）の生活の質を向上させます

目標

1. コミュニケーションを促進
2. 介護士や家族の負担軽減
3. 認知症をもつ方を対象としたDigital Therapyを開発
4. Data分析によるPerson centered careをサポート



沿革

- | | |
|---------|---|
| 2018年2月 | 武田薬品工業株式会社からスピンアウトし、創業 |
| 2018年3月 | 株式会社JVCケンウッドと武田薬品工業株式会社から資金調達 |
| 2019年2月 | 大日本住友製薬株式会社と共同研究開始 |
| 2020年6月 | 大日本住友製薬株式会社から資金調達 |
| 2020年8月 | 損害保険ジャパン株式会社及び大日本住友製薬株式会社と三社連携開始 |
| 2022年2月 | 大日本住友製薬株式会社から資金調達（現 住友ファーマ株式会社の議決権比率：33%） |

株式会社Aikomi : 経営陣

今年6月末、Co-Studio株式会社から派遣された今林 知柔氏が代表取締役CEOに就任



今林 知柔

Chief Executive Officer

元オムロン、エンジニアおよび
新規事業開発を経験
2020年よりCo-Studio副社長



平田 知弘

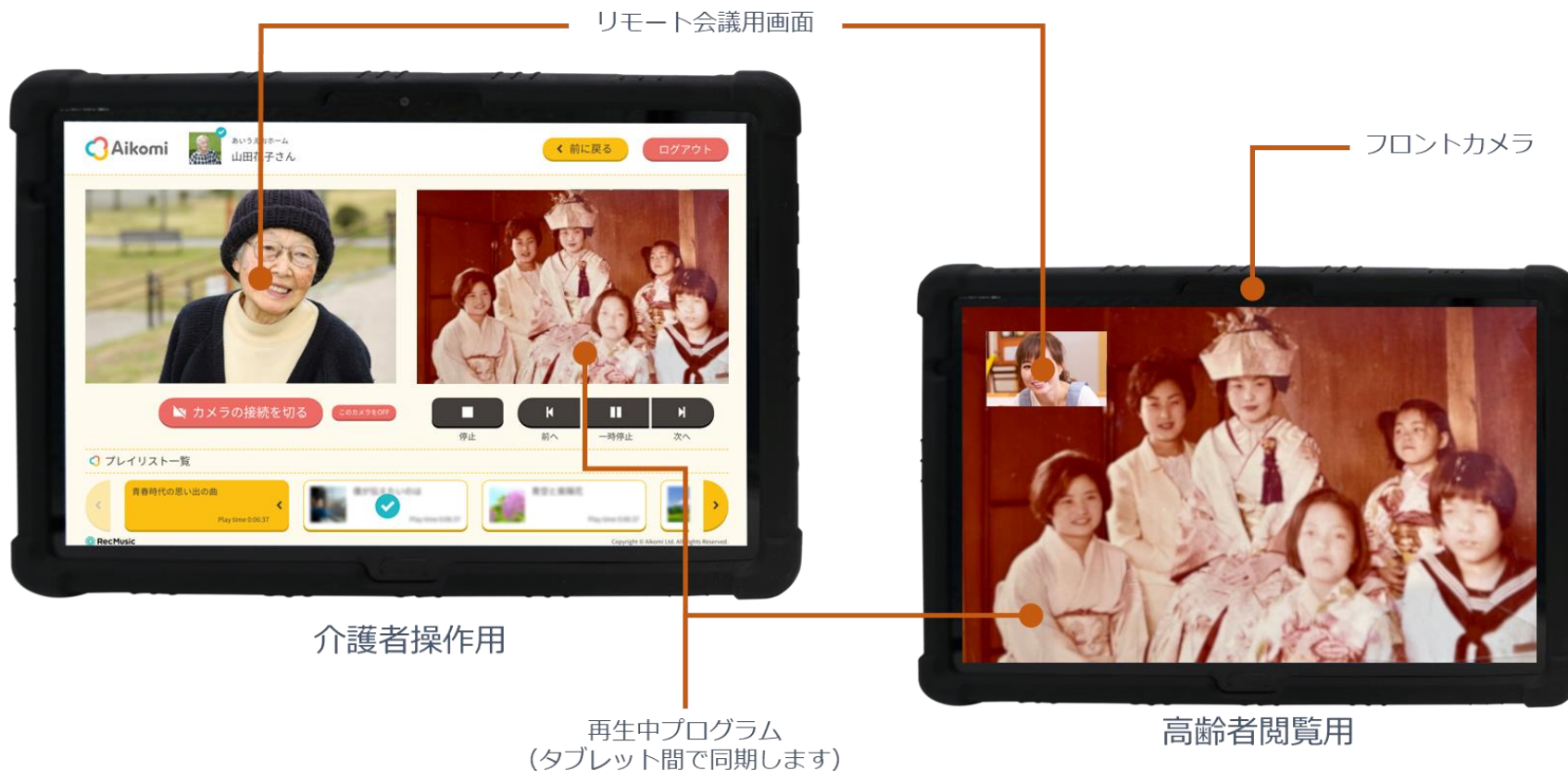
Chief Operating Officer

元NHKディレクター、福祉や
認知症をテーマに番組を制作

Aikomiケア®



- 主にご家族との利用を想定した汎用モデル
- 2021年3月に試験販売を開始
- 認知症の方とご家族の会話のきっかけとなる鑑賞プログラムを提供（リモートで利用可能）
- プログラムは認知症の方の人生史や興味などに合わせて個人ごとに作成



「Aikomiケア®」サービスの構成



Aikomiケア®は、「パーソンセンタード・ケア」を基本理念とし、過去の人生経験などの個々人のライフストーリーを刺激プログラムとすることで、認知症者の長期記憶や感情に刺激を与える心理的介入を実施する。

本人の記憶や感情に関わる情報

家族面談
画像・動画収集



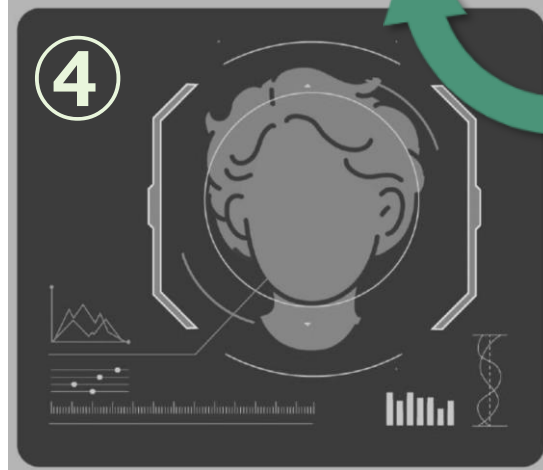
非薬物的ケアプログラムの作成

本人の人生史に基づく映像プログラム作成



データ解析

プログラム最適化



プログラム視聴 データ収集

会話、反応
集中促進集積

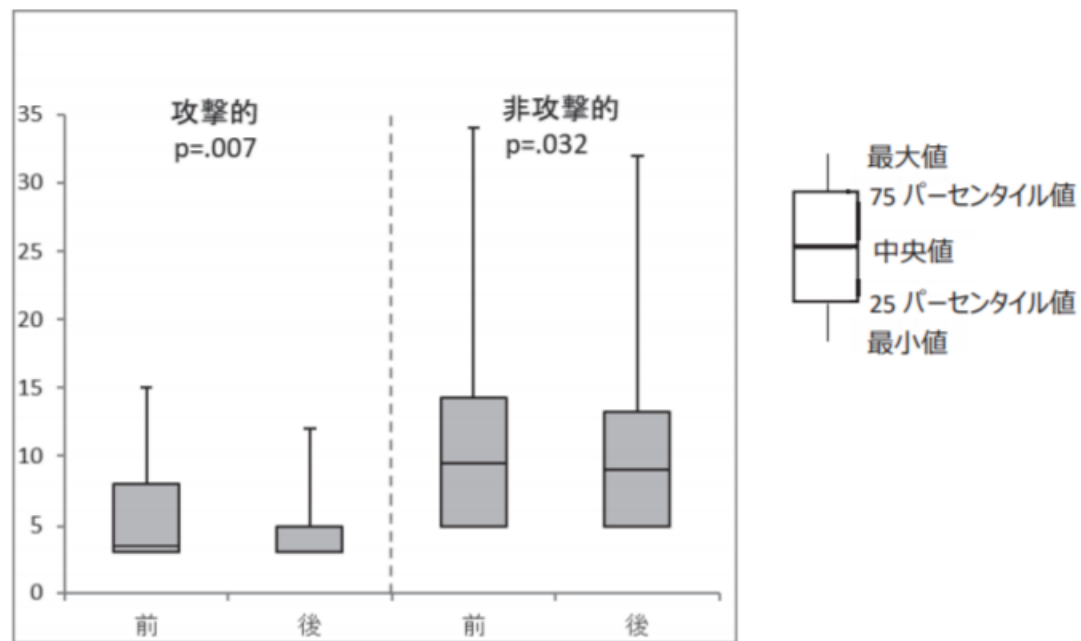


東京都健康長寿医療センターでの臨床評価結果



Aikomiケア®の初期プロトタイプ機器による3回の介入により、認知症の方のBPSD症状の一部である**言語的領域（攻撃的及び非攻撃的）の不適切な行動**が有意に低下した

認知症の方22名対象
3回(1週間)介入



CMAI* (言語的・攻撃的/非攻撃的)スケール

出典) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 令和元年度老人保健健康増進等事業
「認知症の行動・心理症状緩和のための非薬物療法の効果に関する研究事業」

Aikomi DS

- ・ 介護デイサービスでの個別機能訓練用のモデル
- ・ 2023年4月からデイサービスでのPoC実施、7月販売開始
- ・ 比較的経験の浅い機能訓練指導員でも、プログラムに沿って機能訓練を進めることで、一定の機能訓練が提供できる
- ・ プログラムは、認知症の重症度と目的に合わせて15種類から選べる（季節ごとに4パターンの動画セットを用意）



- 1 目的：
 - A) 心身ともにリラックスする
 - B) 家族との絆や結びつき・愛着を感じる
 - C) 地域や社会とのつながりを感じる
 - D) 興味や関心を持ち、自分の能力を発揮する
 - E) 自分のことを話したり自分らしさを表す
- 2 レベル（難易度）：レベル1～3

Aikomi DSの提供価値



通所介護施設の
アンメットニーズ

認知機能が低下した利用者に対して、積極的に個別機能訓練ができていない
【理由】個別機能訓練のプログラム作成には専門性が必要で難しく、手間もかかるため

Aikomi DSの導入



利用者

コミュニケーション・ 心理的安全性の増加

“画面に集中して音楽を楽しめるようになり、日常生活の中でも音楽を口ずさむようになった。”

“集中して見る、反応することができている。”

“家に戻ったとき、家族の「おかえり」の声かけに、「ただいま」と返すようになった。”

介護スタッフの声より

介護従事者

利用者に寄り添う 豊かさの実感

- 少ない負担で個別機能訓練を提供できる
- 多忙な業務の中で、利用者と1対1で寄り添う時間が生まれる

施設

施設経営の安定化

- デイサービス収益の要である介護報酬の加算（個別機能訓練加算）を取得できる
- 特色のある事業所として、ケアマネジャーにPRでき、利用者の獲得につながる